

地域とは何か—集落の歩き方

「地元学」





↑ 金比羅さん

A misty mountain landscape with a green field in the foreground and a line of trees. The text is overlaid on the image.

自然は寂しい

けれど、人の手が加わると、

あたたかくなる。

そのあたたかなものを求めてあるいてみよう

宮本 常一

地元学の誕生—水俣市—



地元学の誕生 ー水俣病の歴史ー

- 1908年(明治41年) - 日本窒素肥料(日窒)水俣工場が設けられる。
- 水俣病の公式発見は、1956年(昭和31年)5月1日とされている。
- 1959年7月、熊本大学水俣病研究班は、原因物質は有機水銀だという発表を行った。

40年間の苦悩

- 1997年(平成9年) 水俣湾に安全宣言が出され、漁業も再開される。
- 2008年(平成20年) 国が「環境モデル都市」と認定した全国 6地方公共団体のうちのひとつとなる。



水俣病

水俣病を産んだもの、「近代文明」(有機水銀)

水俣病が産んだもの、「差別」「社会の分断」

(福島原発被害、コロナ禍、学校のいじめ、被差別部落と同じ構図)



水俣のピエタ像

→裁判と金銭補償では
解決しない！

水俣病認定申請患者協議会会長

緒方正人

- 「子どもながらに、世の中こんなのかと思った。自分の気持ちを収めようがないわけ。親父に毒を飲ませたのは、何者なんだと。

『チツソとは何なんだ』というテーマがずっと残り続けた。早く大人になって、チツソをダイナマイトでぶっとばしたいと思っていました。仇討ちをしないと気がすまない。仇討ちをすることが、親父への応え方だと思っていたのです」 → そして、気づき

「チツソは自分だ！」

- 「『水俣病』という言葉のなかに、近代文明社会の病んだ姿があるのです。極めて普遍的に、今の環境問題が起きていると思っている。海、山、自然界のことを地球的な規模で多くの人が心配している。その通りだけど、逆に自然界が我々のことを心配していると思う。このままだと人間たちの行く先はどうなるのだと。『まだ目が覚めんのか、お前たちは』と言われている。実は世の中が思っているのと逆で、私たちのほうに願いがかけられていると思う。目覚めてほしいという願いが」

「地元学」を生み、
環境都市を宣言し、

「舩い直し」

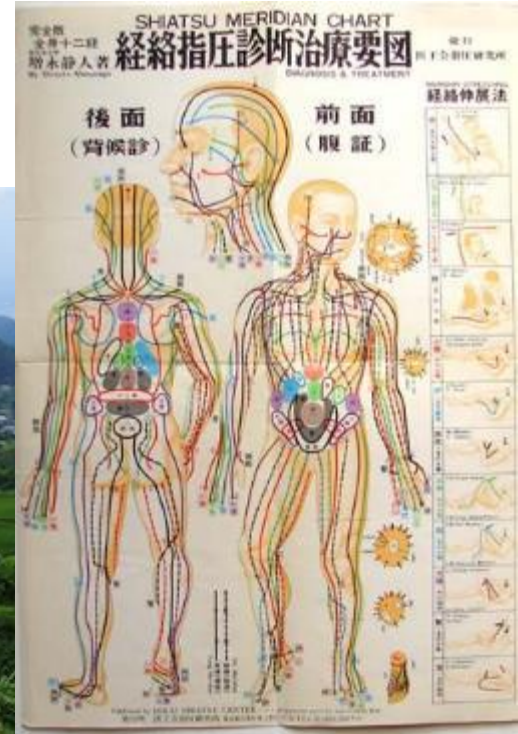
(もやい なおし)

人間関係をつなぎ直す。人と自然をつなぎ直す。

そして、世代と世代をつなぎ直す。

(吉本哲郎)

水の「経絡」



—地域の人と集落を歩く—（地元学）



集落の成り立ち（つながり）と、
地域に入る心得（作法）を、
地域に触れて学ぶ。
地域の、**景観を読み解く。**



1. 目的

中山間地のそれぞれの集落は、どのような**自然条件**の中で、
どのような**社会の変化**の中で、どのような**知恵**をもって、
それぞれの時代に**暮らし**をつくってきたのでしょうか。

時代は1960年前後、と現在の対比。

上皇ご夫妻ご成婚・・・1959年

東京オリンピック、東海道新幹線開業・・・1964年

燃料革命前、高度経済成長以前。

石油と農業機械に依存しない時代、

農業ではなく、農的暮らしの時代、

集落はどのような資源と人で成り立っていたか。

その延長に現在があり、未来を考えるヒントがある！

そんな地域の風土や文化、生活、歴史…

人々が今につないできたものを体感する。



農の風景

農業の世界



「食」と「農」意味の変化

60年前までの「食」と「農」

食 = **生命** (いのち) そのもの
自分の身体をつくり、
生かす。

農 = **生きる** という行為。

(身土不二、アフリカに農民はいない)

現代の「食」と「農」

食 = **お金** で **栄養素** を購入し、
摂取する。

..... (分離)

農 ≠ 農をベースとした産業 (農業)

お金 を得て生活をまかなう。

農業 と 農

農家は「農業(産業)」と「農(生存)」という言葉で住み分けをしている。

多くの稲作農家は、**原価を割って**コメ作りを続けている。

(1俵の原価15000円、JA買取価格10000円くらい)

経済効率 だけでない、**水田・耕地・林地**経営が、

日本の国土保全を担っている。

そして、多くの**価値観**が**経済効率**より**優先**する。

「農」の理論とは

- ・農地は自己を他人に**さらす**。
(耕地を見れば農家の性格がわかる、自分の家、冷蔵庫の中と同じ)
- ・水利の共同管理から発生するコミュニティーの権利と義務・**必然**
(水は上から下へ、途中では止められない。「嫁は川下からもらえ」)
- ・しかし、食や資源の自給による個人レベルでの**安全保障**(リスク回避)は、
最大の幸せ。最大の**安心**。
- ・生き物を**育てる**喜び、**贈与**で**有り難がられる**喜び。
(人間の最大の**生き甲斐**、**経済以外の労働の意味**)

2. 調べるもの

水(水源、水路、川、谷など)、

光(日照時間、陽射しなど)、

風(強さ、季節、風の道など)、

土(地形、地質、地味など)、

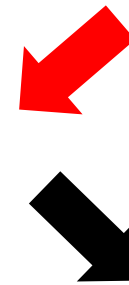
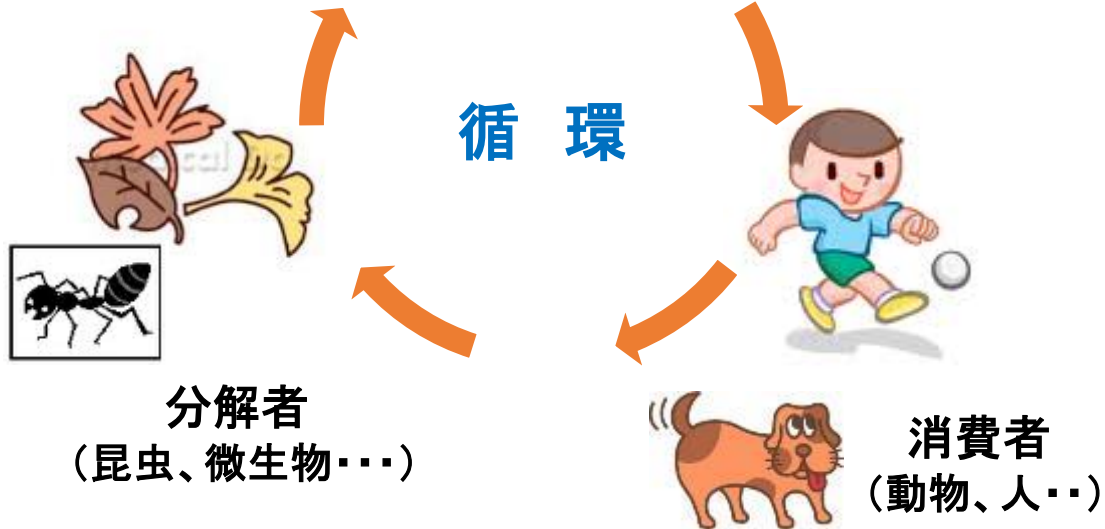
生き物(植物、動物、魚、猟、食害、利用、貯蔵など)

神様(神棚、石仏、信仰、有り難いもの、祈り、祭りなど)

地球生態系 —現代の社会とは—



地下資源
(石油・石炭…)



汚染・廃棄

産業（日々の生業、稼ぎ、自家消費など）、

食べ物（種類、日常とハレの日、調理、素材など）、

家（種類、材、利用など）、

道具（種類、材、加工など）、

衣服（材料、機織りなど）、

薬（調達、自然素材など）、

その他 なんでも、

古いもの、新しいもの、興味をもったもの、全部！

3. 心得

- **先入観を捨てて聞く**・・・とにかく地元の人話を聞いて、質問し、メモをとりましょう。
民俗学の知識や、自分の経験を押し付けないように。
- **名所、旧跡調べではありません**・・・生活の場に当たり前にあるもの、あったもの、人々がどうやって生きてきたのかを調べましょう。
- **対等な立場で聞く**・・・子供たちにも同じ目線で。
- **具体的な内容を聞く**・・・
「農業はどうですか」という一般的な質問ではなく、「田植え はいつか」、「茶摘みはいつ頃からか」、「この野菜は地元では何と呼ぶか」、「この草は何に使っているか」など、**具体的に**聞いていきましょう。

4. まとめ作業

- 模造紙に集落ごと、**タイトルをつけて「地域マップ」**をまとめます。

フィールドワークで気づいたこと、集落の人々が大切にしていたことを書き込み、
また、撮影した写真を貼り付け、手書きのイラストなども加えて、仕上げていきます。

- 出来上がった「地域マップ」には**過去と現在**が混在します。

その中から10年後の**未来**も想像してください。その集落の人々が10年後に、どんな生活を営んでいるか。何を大切に思い、何を未来につなぐのか。

あなたはどのように関わられるのか、地元の方も交えて、話し合えれば素敵です。

- 「地域マップ」は、各グループごとに、発表をしていただきます。



5. 最後に

- フィールドワークを通じて、参加する私たちは、地元の方にお世話になり、
沢山のものをいただきます。

みなさん、それをどうしたら、少しでもお返しができるか、ぜひ考えてください。

一緒に未来を語ること、長い友情をつくること、何度も訪ねること、共同作業に参加すること・・・いろいろありますね。

参加者にとっても、地元の方にとっても、この出会いが価値あるものとなりますように。

A photograph of a dense, lush green forest. The scene is filled with various types of ferns and other green plants. A path or stream bed is visible in the lower center. The lighting is soft, suggesting a shaded forest environment. The text is overlaid in the center of the image.

すべての生命は、多様でありながら
一つにつながっている。